

こんな虫に要注意！ 菜豆のインゲンマメゾウムシ

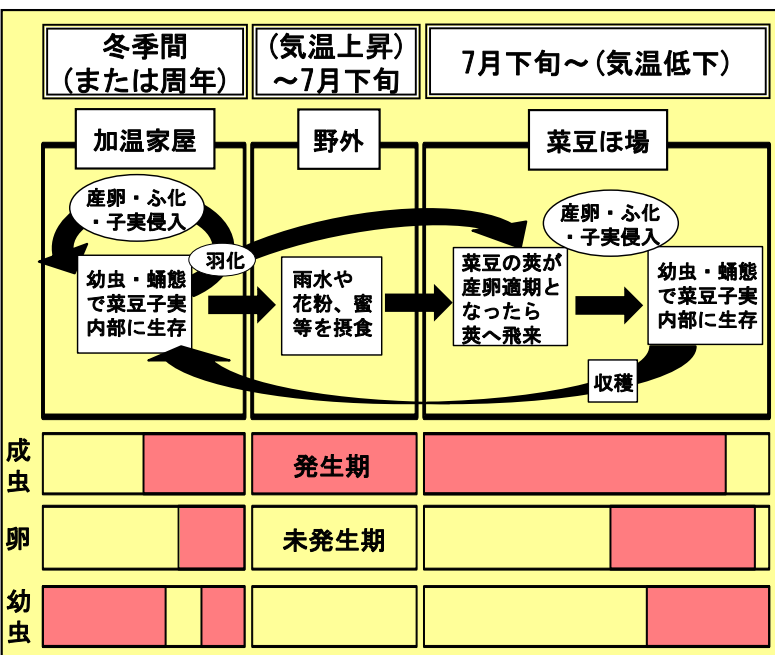
1 インゲンマメゾウムシとは？

幼虫が菜豆類全般の乾燥子実寄生する害虫です。寄生初期～中期の子実外観に症状は認められませんが、終期の子実表面に黒い斑点が現れ、そこから成虫が脱出します。



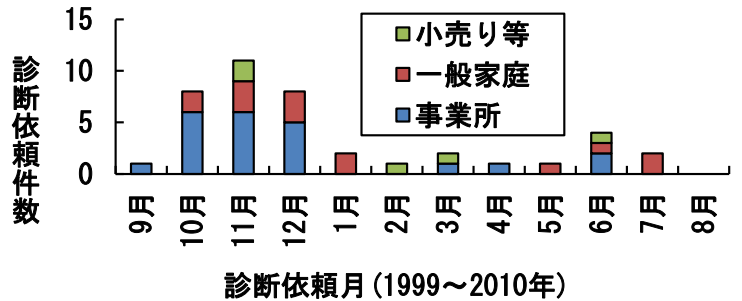
3 生活サイクルは？

加温された家屋内で越冬し、気温上昇後に野外へ飛翔して菜豆ほ場で莢内部に産卵することがわかりました。

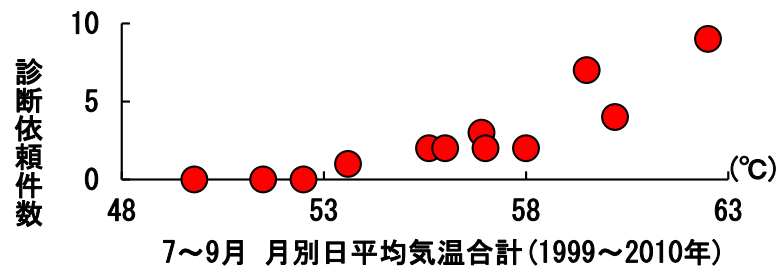


2 月別被害確認事例と多発年の特徴は？

事業所での確認事例は10～12月に多かったことに対し、一般家庭(生産者含む)や小売り等では1年間を通して確認されました。



確認事例は高温年に多くなりました。この理由は、高温年は産卵時期が早まることより、気温が低下する以前に子実内部で羽化する個体が多く、被害が顕在化するためと考えられます。



4 生産現場での対策は？

「被害を減らすための注意点」

- ① 播種後に残った子実の処分
速やかかつ適正に処分し、一年を通して幼虫の餌となる菜豆子実が残らないようにする。
- ② 収穫から出荷までの子実保管場所
風通しの良い野外の日陰や無加温の冷暗所など、できる限り温度の低い場所に保管する。
- ③ 子実貯蔵中に成虫の発生が観察された時
野外に放置せず堆肥に埋没させるなど成虫が飛翔・拡散しない方法で処分する。
成虫は0.04mmポリエチレンを容易に穿孔するため、発見後は処分まで取り扱いに注意する。